

八ヶ岳・権現岳東稜

--- 早春の雪稜を攀る ---

(2009年4月の記録)

安齋恭一

日 程：2009年4月10日（金）夜～4月12日（日）

参加者：秋田誠、安齋恭一

4月11日（土）晴

美しの森駐車場7：30 --- 出合小屋10：00

日付が11日に変わった後インターを降り、道の駅小淵沢で合流、幕営し小宴会の後就寝。5時半起床、美しの森駐車場に移動して朝食。ここの自販機が稼動していないのは計算外であり、飲み物に不安を残したまま出発。予定ではバトレス基部幕営なので、天気が良い今日は相当水分が必要になるはずだ。駐車場から出合小屋までの長い林道歩きが始まる。しばらく歩き、左に下る天女山方面への分岐を右にとり、さらに歩くと自然と川原に行き当たり、左岸の気持ちの良い登山道となるが雪は全くない。しかし、堰堤を2、3越えると次第に雪道となる。樹林帯ではお馴染みのつぼ足だが、重い荷を背負った身には、膝程度でも足をとられ踏ん張る度に実に堪える。いい加減嫌になりかけた頃、対岸に小屋が現れほっとする。ここまでの間渡渉は数回あるが、どれも岩を上手く伝えれば濡れることはなく、岩も滑らず問題となる箇所はない。堰堤にはペンキで方向が示されているので苦労なく越えることができた。連休前なので落葉樹は冬支度のままで、林の見通しも良い。疲労以外全て順調。

日はまだ高く天気も申し分ないが、すっかりへたってしまったため、相談することなく本日の行動を終了し小屋内で休憩。間もなく到着した若者2名のパーティーは小屋に荷をデポすると東稜に出かけて行った。することもないので、取り付きまでの偵察に出かける。途中3回程渡渉が必要になるが、昨年4月末の頃より水量が多いので工夫を要する。赤岳沢出合、本谷出合、権現沢右股出合をどれも左に取ると間もなく権現沢左股の滝（F1）となるが、中央部が出ているのみで、雪の側壁を難なく越えられる。これより上流の滝は総て雪に埋まっている。相変わらずつぼ足踏み抜きの歩きにくい谷の兩岸には数メートルの氷柱がまだ残っており、狭くて深い左股ゴルジュの底には崩壊した氷塊がごろごろしているので、天候・気温によっては通過に注意が必要と思われる。しかし、ゴルジュは短く、足元はしっかりしているので通過に難はない。これを抜け、すぐ右手の取り付きと思われる辺りを確認したが、上ってみないことにはよく分からない。先ほどのパーティーが、なにやら苦労をしているような尾根上部でのコールを聞きながら、小屋に引き返し昼寝。夕方起きてみると、テントが2張りあり、寂しさは感じなくなった。困ったことに、夕食を作る段になって2人とも火気がないのに気づく。仕方なくクライマーと思われる宴たけなわのテントに行き、火を貸して欲しいとお願いしたところ、親切にもライターをお譲り頂いた。おかげで敗退を免れた（感謝）。

東稜へ出かけた2人が予想通り夜8時頃帰還したので声をかけるが、もうへろへろですと言いながら小屋から荷物を出すとテントを張りすぐに静かになった。贅肉のない若者が10時間では、我々はいく少し余裕が必要なので、出発時間を3時、明るくなったら稜に取り付くと決め就寝。

4月12日(日) 晴

地獄谷出合小屋3:45 --- バットレス取付き前の雪壁(アンザイレン)7:45 --- 終了点
10:00~10:30 --- 権現岳(三角点手前のピーク)10:50~10:55 --- ツルネ1
2:00~12:10 --- 地獄谷出合小屋15:00~15:40 --- 美しの森駐車場17:40

夜間曇っていたため気温が思ったより高い。寒くないのはよいが、お陰で昨日よりさらに歩きにくく、水量も増し、渡渉点を選ぶのにも時間がかかる。夜明けとともに取り付くため時間調整しながら歩く。ゴルジュを抜けたすぐ右手斜面がルートだ。難なく詰め上がり、最後に強引な木の根登り一手で稜線に出た。稜上はかなり痩せていて急なのだから、樹木が多くすっきりしない。そんな登りがしばらく続いた後やや広くなった斜面が延々と続く、権現沢左股側へは、比較的なだらかな雪面が降りているので、撤退は容易そうだ。再び傾斜が増し藪っぽい痩せ尾根となるとすぐに樹林が切れ、バットレス手前のリッジに続く灌木の急斜面となる。ここからザイルを結びリッジ、雪壁、灌木帯を2ピッチで登り、岩場の基部へ続くバンドに達する。左隅の灌木を掴み強引に更に一段上のバンドに上がり岩場の下に到着。なんと、ここは去年迷い込んだ岩壁基部だった。バットレスに雪は全く付いていない。暖かいので素手で登れる。その上の傾斜の強い脆そうな壁の真ん中にハーケンと中間部にシュリングが見える。岩の脆さに注意すれば特に問題はなさそうだ。基部から直上し中間点に、そこから左のやや細かいルートに入る。ランナウトと表現される部分ではあるが、さほどのことはなく、よく見るとボルトが2本続き、その先にも新しいボルト2本が並んで見える。アイゼンの置き場に困る細かいホールドを数手こなせば、後はさほど難しさは感じない。その支点から右に一気に灌木のある終了点までザイルを伸ばして短い3ピッチの岩壁は終了となる。ここから権現岳の梯子の上の縦走路まで、雪稜のトラバースとなるはずだったが、ガレの痩せ尾根が出ていて、楽しみがひとつ減った。



権現岳東稜

ここからツルネまでが意外に長かった。ツルネの下りでは左を意識しないと懸垂が待っているのので気をつけた積もりであったが、進むにつれ徐々に痩せてそれ以上進めなくなった時、トレースも間違いであることを悟り潔く懸垂。懸垂下降2回で立派な氷柱が懸かる谷の合流点に出る。その後も何度か懸垂を交え、穴のへりを巻き、長い谷を下り本流に戻った時にはくたくたになっていた。小屋に着いた時、先に下ったソロは見えず、昨日ライターを頂いたパーティー(天狗尾根)はまだ戻っていなかった。時間がかかったとはいえ、今日は明るいうちに帰れて幸せだ。ゆっくり帰り支度を済ませ、小屋を出た。出合小屋からの下りも、傾斜



バットレスの登攀

はないが雪道が悪く、昨日からの増水で水を被っている飛び石伝いに濡れる覚悟で渡渉した。林道終点でひと息つき、やはり長い林道を我慢してやっと駐車場に戻った。

余談

昨年(2008)の4月末に上ノ権現沢と取り違えて権現沢左股に入った。ゴルジュを通過し、展望台の滝を見物し、行けるところまでと思い先に進んだ。大滝と思われる急斜面を超えてどん詰まり感のある3択のルンゼの一番右を詰め、左の稜に取り付いた。ガスっていたため上部に行くほど視界が悪く現在位置の確認ができなかったが、権現東稜の1本左の無名稜に取り付き、上部岩壁で敗退したと考えていた。今回視界が良ければ確認できることが楽しみだった。ところが、実際に東稜の基部手前のリッジに出てみると、雪の量は若干多いものの見覚えがあった。基部手前の瘦尾根、基部のバンドもそっくりで、バンドに上がる時にはもう確信していた。基部の2本のハーケンを左を真上に引くと、やっぱり抜ける。昨年は降雪直後で視界が悪く、雪も薄っすら付いていて、ハーケンが確認できなかった。しかし、敗退したのは正解だったと、今回登攀してみてそう感じた。昨年の宿題の確認のみならず、敗退した岩壁を今回登攀できたことはとても嬉しかった。



権現岳東稜概念図